



## 特集 足摺巨石ツアー報告

理事 柳原輝明

2007年9月1・2・3日の三日間足摺巨石ツアーを挙行了した。当初、このツアーは7月の15・16・17日に行く予定であったが、超大型台風4号のせいで中止せざるを得なかった。今回も台風の接近でやや天候が不安定であるとの天気予報であったが、ツアーを敢行した。参加者は、前回17名申し込みがあったが、今回は9名の申込みで、実際の参加は8名となった。

### 第一日目

9月1日午後2時総勢8名がJR高知駅に集合した。久しぶりに会う顔ぶれにみんな懐かしそうに話し込んでいた。2時30分、今夜の宿舎「足摺テルメ」からの迎えのバスが来た。20人乗りのマイクロスバスで、8人では申し訳のな

い大きさである。おかげで足摺まではゆったりと座っていった。バスは、高知の市街を抜けて高知自動車道の高知インターに向う。小1時間で高知自動車道の須崎東インターである。そこからは国道56号に乗りさらに西に向かう。途中美しい海岸線などを見ながらひたすらマイクロスバスは走る。当初、同じ高知県内であるのでせいぜい2時間程度であろうと思いついてしたが、バスが走れども走れども目的地に着かない。今夜の宿舎足摺テルメに着いたのは高知駅を出てから4時間後の事であった。これは、迎えに来ていただくという範疇を越えており、足摺テルメの方には感謝、感謝である。

さて、到着して部屋の鍵を受け取りまずは部屋に落ち着いた。部屋からは太平洋が窓一面に広がり、その雄大な景色に感激。少し休憩したのち、夕食までの間当足摺テルメの「うり」となっている温泉に浸った。広々とした浴槽から外

を見れば太平洋が一望である。表のテラスに露天風呂があり、その露天風呂につきりながらの太平洋の景観は雄大で美しかった。



ホテルから太平洋を望む

6時30分から懇親会である。100畳近い大広間に我々イワクラ(磐座)学会のための宴席が設けられていた。料理は、さすが太平洋の魚場に近いことから見事な魚料理である。特に土佐清水沖で取

れる鰯と鯖は荒波で鍛えられた一品である。みんなそのうまさに感嘆の声を上げていた。また、土佐といえは鰯である。大きな皿にたっぷり盛りと盛り付けられた鰯の大振りな切り身は驚くほどである。もちろんその味は絶品。我々が都会で食べている鰯とはずいぶんと違った印象であった。

乾杯のあと食事を頂きながら、今回企画からお世話をしていただいたイワクラ(磐座)学会理事の平石知良さんから、足摺のイワクラについての説明があり、参加者の興味を曳いていた。食事をそっこのけで地図を広げて質問をする人、地図に見入る人様々である。

9時お開き。そのあと、温泉に身をゆだねのんびりと過ごす。それぞれ明日のイワクラ踏査に思いを馳せつつ就寝。

## 第二日目

天気予報に反して快晴である。

総勢8名、朝食もそこそこに玄関前に集合。そこには、本日案内してくださるイワクラ(磐座)学会会員で足摺観光ボランティアの宮崎茂さんと直接山道は案内しないがポイントに車で移動し、状況の変化に迅速に対応できるよう待機していただく平石さんが待ってい



足摺巨石ツアー踏査ルート

た。挨拶をして、大まかな道筋の案内を受け、最初の目的地である白皇山に向う。登山の入り口の白皇神社鳥居までは車で数分であった。

### 白皇山神体石

鳥居をくぐるとなだらかな上り坂である。道に沿って石積みがあり、猪の侵入を防いでいるようである。随所に石垣が見られ、これ



白皇山御神体石

らははるか後世の建物等の敷地や墓所の跡である。細い山道を歩く事15分程度で白皇山御神体石に到着。それは4m×6m高さ5mの巨大な岩である。頂上部は三角形の美しい形をしている。下部は地面との間に三角状のくぼ地があり、かつてそこが供物をささげる場所のように思えた。

そこから数分、道の横手に手のひらをすぼめ指を空に向けている



手のひらをすぼめたような立石

ような岩が見えた。その下の方には笠をかぶったような岩が見えたが、そこまで降りて写真を写す度胸がなくあきらめた。すぐ傍に4m×4m、高さ5mの二段重ねの岩が現れた。頂上部はすぼまり、



二段重ねの巨石

おそらく四角錐になっているようである。このあたり一帯巨岩が集まっており、なんらかの祀り場を形成していたかのようである。

### 白皇山頂上

さらに山道を進み頂上に達した。そこはやや開けた平場があり直径3mほどの半球状の岩があり、頂部に石の祠が祀られてあった。祠の裏に回ると巨岩があり、その場所からは太平洋の海原が一望であった。かつてこの部分に白皇神社の社殿があったことである。ここより白皇山の第二峰に向った。途中見事な三日月型をした岩があった。岩の自然節理によるものと思われるが、剥がれたかたわれが傍にない。即ち、特徴のある形をしたこの岩を何らかの意図を持って運び込んだ可能性は大いにあると思う。





三日月型の岩



頂上の巨石



三つ石



烏帽子岩



白い立石

## 白皇山第二峰

白皇山の第二峰に到着。そこには、大きくはないが整った配置の三つ石があった。この足摺には三列石といわれる組石が多く存在している。これは、土佐清水市教育委員会の調査のときの報告書で『古代人は、宇宙の構成要素として、「天・地・海」の三つを考え、

それぞれの神を「石神」として表現した。内陸型の中国的表現としての「天地」より、はるかに客観的・包括的表現であろう。』と述べられていたように、この地では三つの神への信仰が強いようである。少し西に行くと巨大な岩が現れた。烏帽子岩である。高さ5m以上もある烏帽子の形をした岩である。その雄大さには圧倒された。この烏帽子岩を中心に小型の岩でサークル状の結界が結ばれていた。

まさしく人工的に設えられた祈りの場であることが分かる。

## スカイライン横のイワクラ群

西に向って降ること十数分、特徴のある岩が目の前に現れた。高さは1・5m程度の小さな立石であるが、他の今まで見てきた石とは異なり、森の木陰の中で白く輝いているように見えた。岩質が違



要塞状巨石群

うのだろうと思うが、あえてこのような岩を配置しているところに何らかの人為的なおいがしがないだろうか。

さらに進むと、スカイラインと平行して巨石が100m以上累々とつながっていると出てくる。恰も人工的な要塞の様にも見える。随所に巨石の門構え(ドルメン)らしいものも見え、人工的なおいがする場所である。



岩組みの中の御神体？

ここはスカイラインのすぐ横であった。少し戻ってスカイラインに出た。10m程度戻ったところに細い山道があり、そこを分け入る。まさしく案内してくださる方がいて初めて見つけることの出来る道である。

### 長歯朶山

山道を少し分け入って、さらに

細い山道に分け入る。その間約10分。巨大な岩が折り重なっているところに至る。一見自然の岩場に見えるが、周りをよく見ると1m程度の岩がきれいな円状に取り巻いているのが見え、明らかにこの場所が古代の人工岩組みであると確信できた。さらにぐるりと周囲を見るとその岩組みの中にあまり大きくないがドルメン状の岩組みの中に恰も御神体のように60cm程度の立石が祀られているところがあつた。不思議なぐらい人工的な感を受けた。

さらに少し進むと高さ3mほどの正面から見れば四角柱、横から見ると船の帆の形をした巨石が現れた。周りを2〜3mほどの巨石に取り囲まれ屹立している姿は見事である。正面から見れば男根像そのものであるが、見ようによっては古代の海の民が黒潮に乗ってやってきたときの帆船をかたどっている様にも見えた。



船の帆(男根石)

### 三列石・亀石

元の山道にもどりさらに西に降ると高さ1.5m程度の三列石が現れた。前述したように、この足摺の山中では三神信仰が盛んであつたようである。おそらくこれは、黒潮に乗ってきた黒潮の民が信仰するオリオン座のベルトの星と関係があるのではないだろうか。航





三列石

海をする人にとってオリオン座の三ツ星は方向を定める上で重要な役割を持っており、このことは超古代から重要な目印として航海をしてきたといわれている。余談であるが、全国にオリオン座の三ツ星をかたどったと思われる三ツ石のイワクラが見られる。筆者の知っている山添村の神野山山中にもそのものずばりの三ツ石があり、さらにオリオン座をかたどる星を



亀岩

映したと見られるイワクラが存在している。三列石から物の数分のところに巨大な岩が現れた。高さ4m、横方向7mの巨大な岩である。亀岩である。なるほど横から眺めると亀に酷似している。やはり海の民と亀、何らかの意味を持ってここに置かれたものであろう。亀の頭の下を見ると、地面との間に出来た三角状の空間に小ぶりの髻が並

べておかれている。明らかに人工的に置かれたものであり、何らかの祭祀の意味があったのであろう。

#### 船型石・暦石(女神岩)

10分ほどで目の前に白い岩が現れた。舳先の反りあがった見事な船の形をした岩である。海の民の記憶として古代から信仰の対象になっていたのであろう。

余談であるが、2000年11月の足摺巨石サミットのとくに講師でこられていた茂在寅男氏がギリシャ神話のアルゴ―船をかたどっているのではないかという話をされた。その根拠として艦の部分が折れて横に置かれている事を指摘された。筆者も他のところでみた船型石も、不思議と艦の部分が折れて横に置かれているのを見ている。何か共通の意志が感じられる。もちろんギリシャ神話の時代と巨石文明の時代とはかなり隔たりにあり、実際はギリシャ神話か

らというより、古代の海の民の伝説に船の難破の言い伝えがあり、それを映し、祈りの場としたのではないだろうか。



船型岩

船型岩を過ぎて少し行くと1m前後のそう大きくない滑らかな角を持つ岩が数個積み重ねられてあった。暦石と呼ばれている。宮崎氏曰く、これは女神像であるそうである。確かに横から見ると女性の頭部とその下部の岩が豊かな胸



磨岩（女神岩）

を表しているように見え、まさしく女神像である。この岩も、自然の岩組みというより人工的に組み上げられた岩組みであることは明らかである。



記念写真

磨石を過ぎるとスカイラインに出た。そこに平石さんが待機してくれていた。次の見学場所である唐人石までは距離にして1.2kmのところにあるそうである。疲れた人は平石さんの車で送るといってくれたが、全員歩きを選んだ。

唐人石



ぶらぶらと歩いて約30分、唐人石群に着いた。そこは、信じがたい巨大な岩が累々と折り重なっている。登り始めてすぐのところは巨大な岩が現れた。千畳岩である。それを見上げつつさらに登ると巨大な亀の形をした岩が現れた。その雄大さに畏敬の念さえ覚える。少し登ると亀石である。巨石の上には亀の頭のようなものが見える。この岩はあまり大きなものではない。



亀岩





剣の刃先状の岩

いが形がおもしろい事から亀石と名づけられたのである。頂上部に見事な三角錐の岩が現れた。なぜか名前がつけられていない。そこを過ぎると下りである。少し下ったところに、剣の刃先を思わせる巨大な岩が現れた。岩の自然節理で生じたというにはあまりにも見事な造形である。灯台としての



千畳岩

航海の道標として見たときこの岩は充分その機能を果たすように思える。

道なりに降りて行くと、最初上り口の左手に見えた千畳岩の横に着いた。梯子があり、千畳岩の上に登る事が出来る。岩の上からは遙か雄大な黒潮を眺める事ができる。心地よい風に吹かれ一同大満足である。

全体に遊歩道が整備され、公園のようになっていて、足の弱い婦

人子どもでも充分岩登りを楽しむ事の出来る場所である。

### 唐人駄場

200m近い直径を持つ環状列石である。その昔、環状列石の中は何本もの直線状の列石があったということである。恰もフランスのカルナックの列石のようであったかもしれないとひそかに想像している。また、遙かパラオの地にストーンモノリスと言う場所があり、広い草原に列柱が立ち並んでいるところがあるようである。フ



唐人駄場の立石から唐人石を望む

ランス、日本、ミクロネシアとまったく違った場所に似通ったものが存在する事の不思議。人類共通の潜在意識があるのかと想像してしまう。現在、足摺の唐人駄場の列柱は戦時中の食糧増産のため畑として利用され、農耕に邪魔な岩は取り払われ、または地中に埋められてしまった。現在、僅かに数本の柱状の岩と、環状の縁をかたどっている巨石が残っているだけである。

その一つ残っている立石から北の方向を眺めると、先ほど登っていた唐人石群がまじかに見え、明



らかにこの立石は唐人石を遥拝する場所であったのかもしれないと思っただ。

唐人駄場を公園として整備するときそれを工事した人が、当時残っていた岩の形状を覚えていたようである。それによると駄場中央に巨石の岩組みがあり、周囲を恰も太陽(星?)を観測するかのよう



唐人駄場の復元図(記憶による)

に、環状に岩が立ち並んでいたと

いう事である。

ここで、昼食の弁当が運ばれてきた。それぞれ思い思いに岩に腰掛、弁当を頂いた。汗をかいた体に唐人駄場を吹き抜ける風が心地よかった。

### 臼碔

午後、唐人駄場をあとにして臼碔に向う。

臼碔は、黒潮が日本に最初に接岸する場所として有名である。そこに竜宮神社がある。海に突き出た岩の岬の突端にそれはあった。小さな神社である。神社から沖を見ると荒々しく波が碎け、黒潮の接岸地に相応しい景観を示している。この神社に、夫が航海に出て行方不明になった婦人が沖に向って前を広げて祈ると夫が帰ってくるという、ややエロティックな言い伝えがあるそうである。

一同思い思いに写真を撮り引き

返す。

ここで、二日目で帰る人たち3人を見送り、残るものはマイクロバスに乗り込んだ。

### 灘の大岩

臼碔よりマイクロバスで約20分。それは集落の道の脇に聳えて

足摺の巨石の中でも1、2を争う大きさである。下部は中心部が空洞になった円環上の岩で支えられており、昔この中で「バクチ」をしていたそうである。その形状は上部が緩やかな球状をしていて、その胴の部分は苔が張り付いている。この岩は海岸に近い場所であり、黒潮の民が陸に接岸するための目



灘の大岩

いた。高さは優に10mを超える。

印として存在していたのではない

だろうか。あるいは、陸に近づくと船の見張り場としての役割があったのかもしれない。

### 竈神社の巨石

大岩を出て海岸沿いの道を約30分走ったところに竈神社があった。足摺岬の東海岸である。山肌には張り付いた高さ4mほどの巨岩が御神体の神社である。この神社

の西側に午前に入った白皇山の巨石地帯があり、竈神社が白皇山の拝殿としての役割があるのではないかと思う。

### 金剛福寺

竈神社の巨石で本日の見学は終了である。帰途、金剛福寺によるということであったが、宮崎さんの御好意で展望台に案内していた。そこからの太平洋の眺望

は見事であったし、展望台から見る潮の岬の灯台はえも言えず美しかった。金剛福寺までは歩いていく事にし、海岸縁の絶壁に整備された遊歩道をたどっていくことにした。遊歩道沿いに「足摺の七不思議」として、亀石や揺るぎ石や不増不滅の手水石などを見ることが出来た。あまり大きなものではないが、一般の人達が「イワクラ」というものに触れるのによい機会を提供している。

遊歩道を抜けると金剛福寺の山



竈神社の巨石



遊歩道沿いの巨石



金剛福寺

門に到着。西国三十八番札所と言う事で、こういう機会でもないところに来る事が出来ないであろう。境内はさすがに立派で、建物も荘厳である。参拝ののち宿舎に戻った。

夜は、部屋食である。昨日に続いて豪華な食事である。太平洋を眺めながらの食事とは贅沢そのもの。



あとは、疲れた体を温泉でゆっくりとほぐす。

見事なイワクラを充分堪能した上、食事といい、温泉といい最高の贅沢をした気分である。今回参加したくても予定が取れなくて参加できなかった会員の皆さんには申し訳ない気持ちである。

### 三日目

今日は帰宅するだけである。

足摺テルメのマイクラ潮鉄道中村駅まで送ってそこから黒潮特急に乗る。12時到着。駅前で解散した。

各自思い思いの過ごし方と思う。私は、司馬遼太郎として幕末の遺跡を訪れ、街中を歩き回った。最後に、高知城の天守吹き抜ける心地よい風をた。



あ 新聞を  
高知城天守

最後になりましたが、今回のツアーを企画し、準備をし、様々な心尽くしをしていただいた富田無事男さんと平石知良さんに感謝申し上げます。また、険しい山道を軽快に案内し、軽妙な話し振りでイワクラの説明をしていただいた宮崎茂さんに感謝申し上げます。

なお、文中の各巨石に対するコメントは、筆者個人の感想であり意見で、先人の研究成果に異を呈するものではない事を申し添えます。

了

